

### 3 消費地からのホットニュース、トピックス

#### (1) 他山の石としよう

先日の新聞に“インド産マンゴーから残留農薬”との記事が載っていました。福岡の市場で基準の1.8倍~2.4倍の殺虫剤が検出された。食べても直ちに健康に影響はないというベタ記事でしたが、インド産は昨年6月に輸入解禁となって、今年は約60tが輸入された中での初体験と言っています。春先には、栃木県での苺“とちおとめ”の廃棄処分の話題もありましたし、今は、中国産の食品や添加物が安全基準をはずれているとして、世界的な関心が寄せられているだけに軽視してはならない問題だと思います。

マンゴーと言えば我がサクランボと真っ向競合する宮崎県産を意識していますが、それはあくまでもギフト商材としての世界であって、庶民として味わいを求めているのは、やはりメキシコや米フロリダ、フィリピンなど輸入商品が値頃感を含めて評価されています。それだけに輸入と国産は7:3に近く、国産品が多く出回る3~8月でさえも、6:4となるのがやっとの状況です。消費者の食の安全・安心へのこだわりは病的と言えるほどのものがあるだけに、メディアの情報は限りなく大きな影響を与えるものと覚悟しなければならぬのではないのでしょうか。

折りしも、盛期を迎えるサクランボが山形セレクションブランドとして第一陣が好評のうちにスタートしています。今が一番大切な時だけに、改めて安全・安心に関わる取り組みについて、皆が一人一人それぞれの立場で確認し合いたいものです。報道されているようなことは対岸の火事視せずに、もって他山の石としていきたいものです。